

支援員のレベルアップを目指した勉強会の取り組み
(1 パーセントの仲間を増やすために)

西駒郷 駒ヶ根支援事業部 駒ヶ根日中支援課 小林健太 江田翠 櫻井志帆
他 6 名 (日中支援課 4 名・企画調整課 1 名・ひまわり支援課 1 名)

ーはじめにー

目まぐるしく変化していく現在の社会において、その変化についていかなければ、その組織の行く末はないのではないかと思う。

それはどの業種においても同じだといえるのではないだろうか。もちろん、私達が働いているこの福祉においても、言わずもがなである。

しかし、私達支援員は日々の業務に追われ、目先のルーティンワークをこなすことしかできなくなってきてはいないだろうか。変化を恐れ、より良い支援とは何かを、自問しながらも考えないようにしてきたのではないだろうかと感じていた。

そこで私達は、5年程前から自閉スペクトラム症者への支援を中心に学ぶ、勉強会を実施してきた。科学的根拠を用いたアセスメントや、最新の支援方法を学び、実践してきたのである。

その間参加対象職員を広げたり絞ったりしながら、試行錯誤で続けてきたが、良い面もそうでなかった面もあった。

しかし、「それぞれの自主性を育みながら、1%の仲間を増やしていくことができるか」という目標を掲げて取り組んできたのである。

今回は、その成果と実践したケース、今後の西駒郷の支援について、アンケート結果も踏まえて述べてみたいと思う。

1 勉強会の実施方法

私達は、自分達の現状を把握し、何が必要なのかを考え、以下の項目で勉強会を実施してきた。

具体的には、年4回ほどのペースで26年度から開始し、29年度から月1回のペースで行った。それぞれ参加人数は違うが、5名から20名程度の間であった。

(29年度からの勉強会実施計画)

- (1) 事前アンケート
- (2) 自閉スペクトラム症の特性について (映画鑑賞含む)
- (3) TEACCHプログラムの構造化について
- (4) 応用行動分析 (ABA) について
- (5) 太田ステージ評価について
- (6) 強度行動障がい研修の復命
- (7) 事例検討
- (8) 実践

2 2年前のアンケート結果から見える支援員の意識について (別添資料1)

私達は勉強会の参考資料として、この5年間に3回のアンケートを実施してきた。

内容は①TEACCH プログラム、②太田ステージ評価、③応用行動分析について、それらをどの程度知っていて理解しているか、それらを使って実践しているのかいないのか、実践していない理由等についてである。

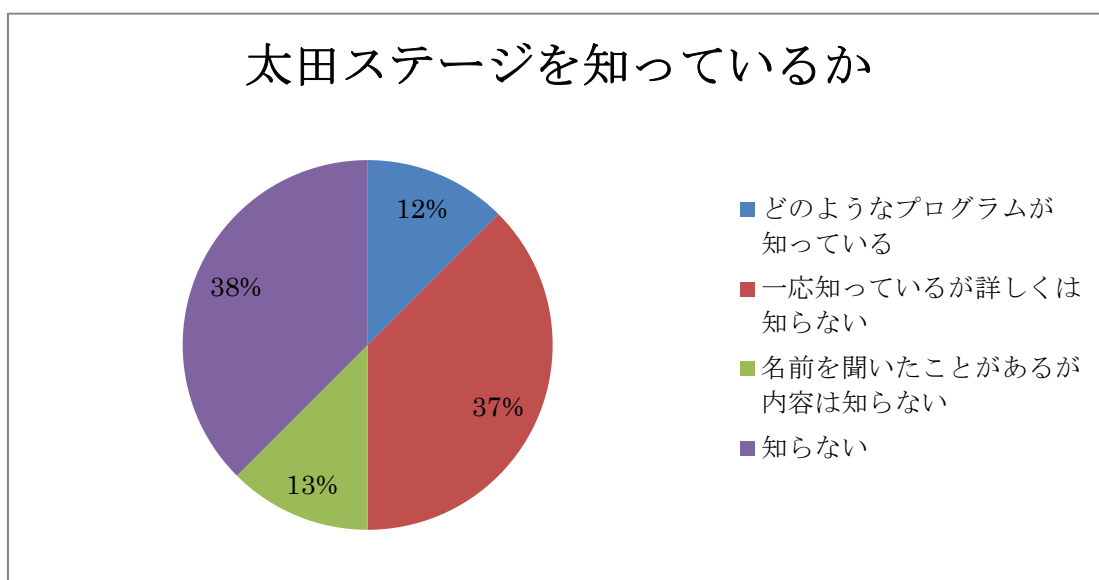
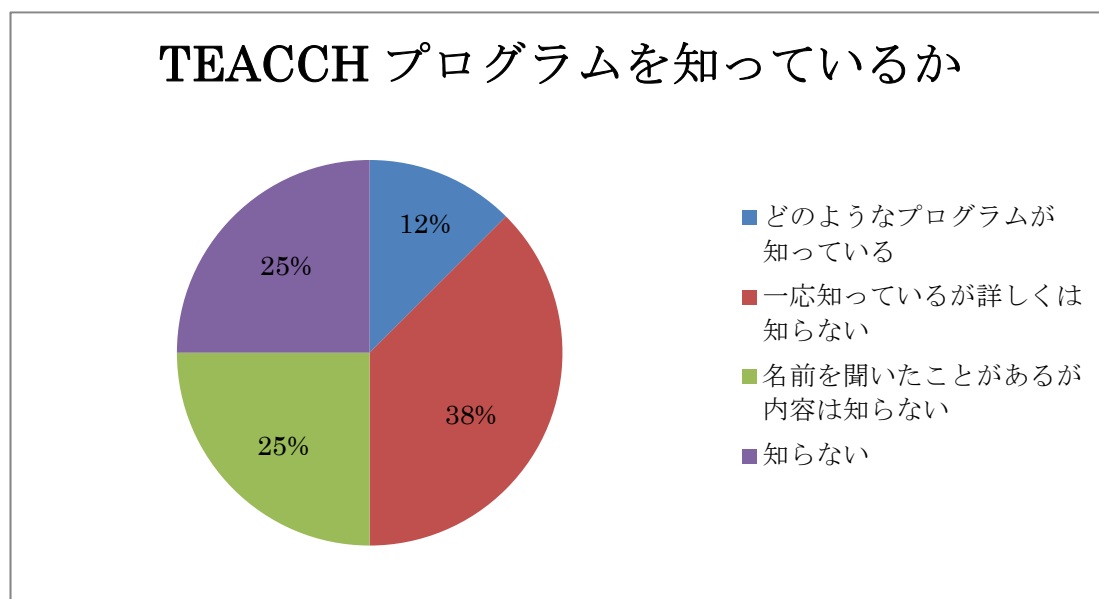
そのうち、まずここ2年間で行った2年前のアンケート結果（勉強会参加現メンバー）から、見えてきた意識について考えてみたい。

勉強会開始時は8名でスタートしている。

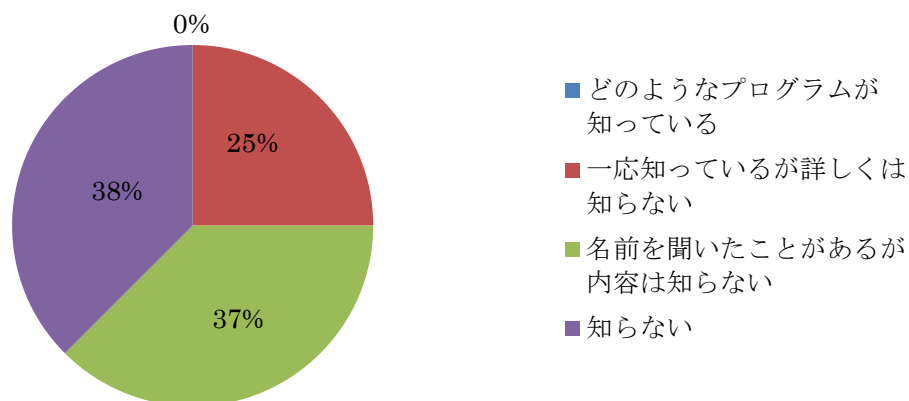
(1) アンケート結果

ア それぞれの技法等の理解度について

図1



応用行動分析学を知っているか



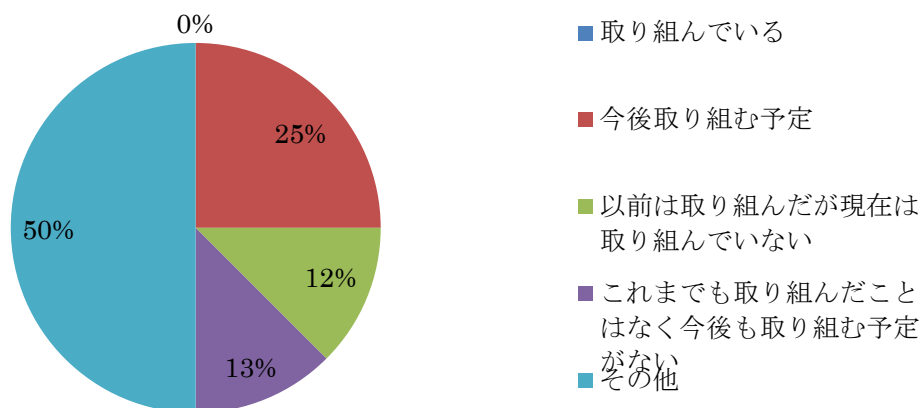
どの項目に対しても、「詳しく知らない」や「内容は知らない」「知らない」が8割以上である。5年前から勉強会を行ってきたが、中々理解している人数が増えず残念な結果であった。

さらに、取り組み状況についても聞いてみた。

イ それぞれの技法の取り組み状況について

図2

太田ステージ取組状況

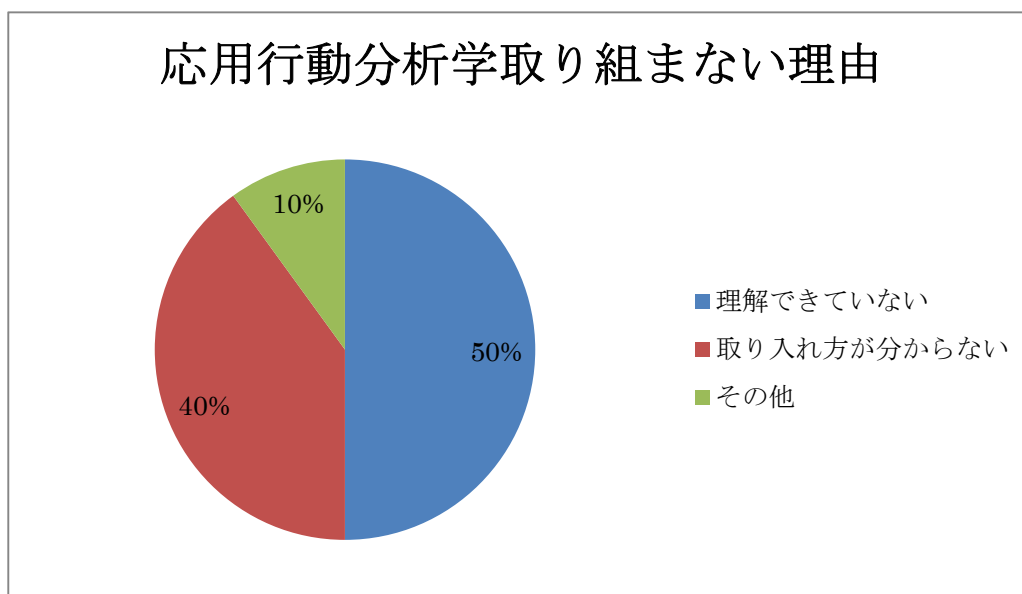


ここに全てのグラフ結果はのせないが、TEACCH プログラムに 12%の取り組みがあっただけで、太田ステージ・応用行動分析共に取り組んでいなかった。

では、何故取り組まないのだろうか。取り組まない理由については、図3の結果になった。

ウ それぞれの技法に取り組まない理由について

図 3



ここでも全てのグラフではないが、応用行動分析についてあげてみた。全ての技法で、ほぼ半数以上が「理解できていない」という結果であった。これは、5年前からの勉強会が、知識として学ぶことを中心に行ってきたからではないかと考えている。

(2) 2年前のアンケート結果から見えたこと

5年前から勉強会を行ってきたが、知識として学ぶ勉強会だった為に、それぞれの技法を知っている人数が少なく、ほぼ日々の支援に活かせる状態になっていないことが判明した。

しかし、それは以前から感じていたことでもあり、3年ほど前から知識として学んだ後、実践を伴う勉強会のパターンにすることにした。職員の異動もあり、中々定着や支援の継続性に難しさがあったが、できうる範囲内で実践中心に行うことを繰り返したのである。

2年前からの勉強会については、事例検討→実践→再検討→実践を繰り返し行った。次は、その実践事例について紹介したい。

3 実践事例について

私達は、2年前から、自閉症スペクトラム症の特性や支援方法、科学的根拠に基づく評価の方法等、自分達がこれまで研修で得たものを共有し、実践に移すための勉強会を中心に据えて行った。

その実践事例2つについて、紹介したい。

(1) ケース1「アセスメント後の目標から支援策を考えたケースについて」

ア 「S. I」さんの支援方法の検討、及び実践について

「S. I」さんは、29年度から利用している。最初は、作業に関するアセスメントを取る為に、自立課題を構造化した状況で提示して、自立課題を行ってみた。しかしそれへの拒否感からか、人を抓る行為が頻発するようになった。

そこで、しばらく自立課題もせず様子を見たが、何もしない日々の繰り返しになってしまった。そこで、再度日中活動で何ができるのかを検討することにした。

まず、ご家族の協力も得て共にアセスメントを取り、そのすり合わせを行った。

そして太田ステージ評価の結果も踏まえて支援目標を立て、実践に移したのである。

イ 「S. I」さんの概略

- ・ 氏名：「S. I」さん（男性）
- ・ 年齢：19歳
- ・ 自閉スペクトラム症
- ・ 障がい支援区分 5

● 行動特徴

- ・ 優しく穏やかな性格で、笑顔でいることが多い。
- ・ 人が多い中になると、不安になってしまう。
- ・ 嫌な事は伝えられるが、ストレスがかかり不安になると、泣いたり、自分の頭を叩いたり、抓ったりしてしまう。

● 領域別アセスメントの注目項目（別添資料2）

- ・ こだわりが強いので、様々な行動に対して、許容できる範囲内で対応してあげると、ストレスがかからない。
- ・ こだわりは強いが、強迫的になっていく傾向にはない。
- ・ 「どこ」「あそこ」等の抽象的な言葉の理解は難しい。具体的に伝えることが必要。
- ・ 文字にはこだわる。様々な変更も、書いて伝えると理解できる場合が多い。読むことは得意である。
- ・ 作業は、長くて1時間が限度である。
- ・ ドライブが好き。

● L D T - R 太田ステージ (検査結果はステージⅢ - 2) (別添資料3)

太田ステージ	Stage Ⅲ - 2	概念形成の芽生えの段階(前操作期前期 3歳~4歳)
状態像	<ul style="list-style-type: none"> ・2~3 語文 理解は経験に依存している ・自分本位の関わり(独特な質問癖) ・子どもに関心を持つようになる。 ・自我の芽生え ・簡単な表象遊び(役割を持った遊びは、まだ難しい) ・時に強迫様の行動 	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自我形成や自発性を促す ・本人なりの趣味を尊重しつつ、余暇を広げる ・学習的なことに期待を持ちすぎないこと ・思考の柔軟性を伸ばす為にいろいろな話しかけをしたり、新しい体験をさせるように心がける ・言葉での交流が不十分ながらみられ、親子で気持ちの共感も感じられるようになる 	

ウ アセスメント結果から決めた目標と考えた支援方法

ご家族の願いとしては、本人が楽しく過ごせればよいというのはあるのだが、日課として作業活動もできればよいとのことだった。

さらに、休日の利用等で、長年通っている別事業所があるが、人との関係が固定化してしまうことを避けたい。人との関わりを広げることもしてあげたいという希望があった。

目標「自ら楽しんで参加できる活動を見つける」

「集中して取り組める作業を見つける」

- ① 受託品の納品作業を毎回行う。→自ら楽しんで参加できる活動
社会とのつながり
- ② 作業品の実地販売 →作業対価への理解とやりがい
社会とのつながり
- ③ 作業対価のポイント制 →作業対価への理解とやりがい

エ 実践の様子

(ア) 受託品の納品作業

→ (ドライブが好き・社会とのつながり) アセスメントより



(イ) 作業品の実地販売

→ (作業対価へのやりがい・社会とのつながり)

作業対価までの流れを、逆の流れ(作業対価のご褒美を先に体験すること)で、「販売(売り上げで買い物をする)」→「販売品を作成する」手順を踏み、自分が作成するもの売って、利益が生まれることを認識してもらった。

(ウ) 作業対価のポイント制

→ (作業対価への理解とやりがい)



これも、逆の流れから理解することを目標に、「ポイント表のスタンプが全て押されている」→「買い物をする」→「次の日に作業をする」→「スタンプを押す」の手順をふんだ。

オ まとめ

「S. I」さんの支援を行うにあたり、フォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメントの両方を重視し、実践を行った。納品の活動は意欲的であり、楽しんで行うことができている。

1日の日課の中においては、自分の好きな紙破きの時間もいれつつ、作業活動も取り入れてみた。自立課題時にあったような、抓り行為はなくなり、作業を行ってくれている。抓りは、拒否の意思表示だった思われ、それが減少しているのは評価できるのではないだろうか。

しかし、太田ステージの留意点にもあるように、学習的な事に期待は抱かないようにというものがある。まさに、作業に関しても中々支援員側の思うようには進まないのが実際である。よって、意欲的に取り組むという課題は残り、今後更なるアセスメントと支援方法の工夫が必要かと思われる。

(2) ケース 2

「M.N さんの行動の課題を改善したケースについて」

- ・ 行動の課題：昼食終了時に、食器を全て流しへ投げ入れる
- ・ キーワード：応用行動分析 (ABA)

ア 「M. N」さんの概略

- ・ 氏名：「M.N」さん (女性)
- ・ 年齢：45 歳
- ・ 診断されていないが、自閉スペクトラム症の行動特徴がある。
- ・ 障がい支援区分 5

イ 行動特徴

- ・ こだわりが強く、多くの言動に同一性保持の原則が見られる。
- ・ 待つことが苦手であり、先に動いてしまう。
- ・ 日々の過ごし方は、ルーティンで動いている。その間は、落ち着いて行動できている。

ウ 行動障がい動機付け尺度 (ABA の手法を用いて) (別添資料 4)

c) 動機付け尺度評価表

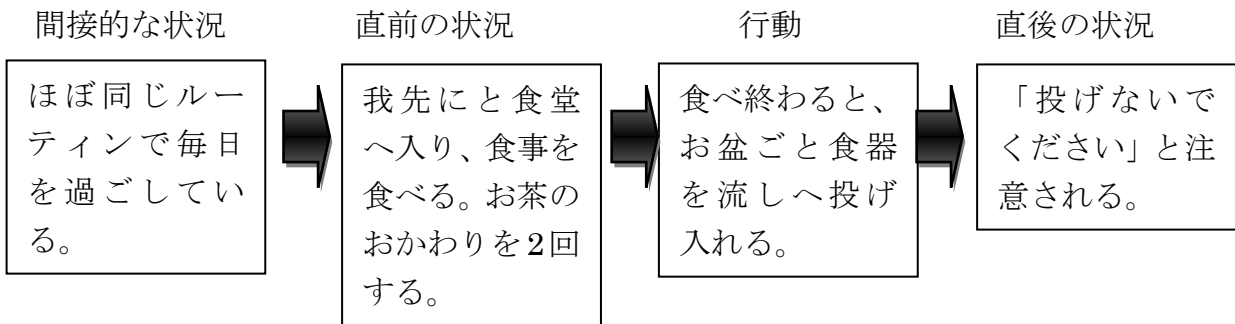
	感覚要求		逃避要求		注目要求		物・活動要求	
	1	6	2	6	3	1	4	3
	5	2	6	0	7	3	8	5
	9	2	10	0	11	6	12	4
	13	0	14	0	15	0	16	6
計	10		6		10		18	
平均	2.50		1.50		2.50		4.50	
相対順位	2		3		2		1	

(食事支援に関わる職員 5 名で評価を実施)

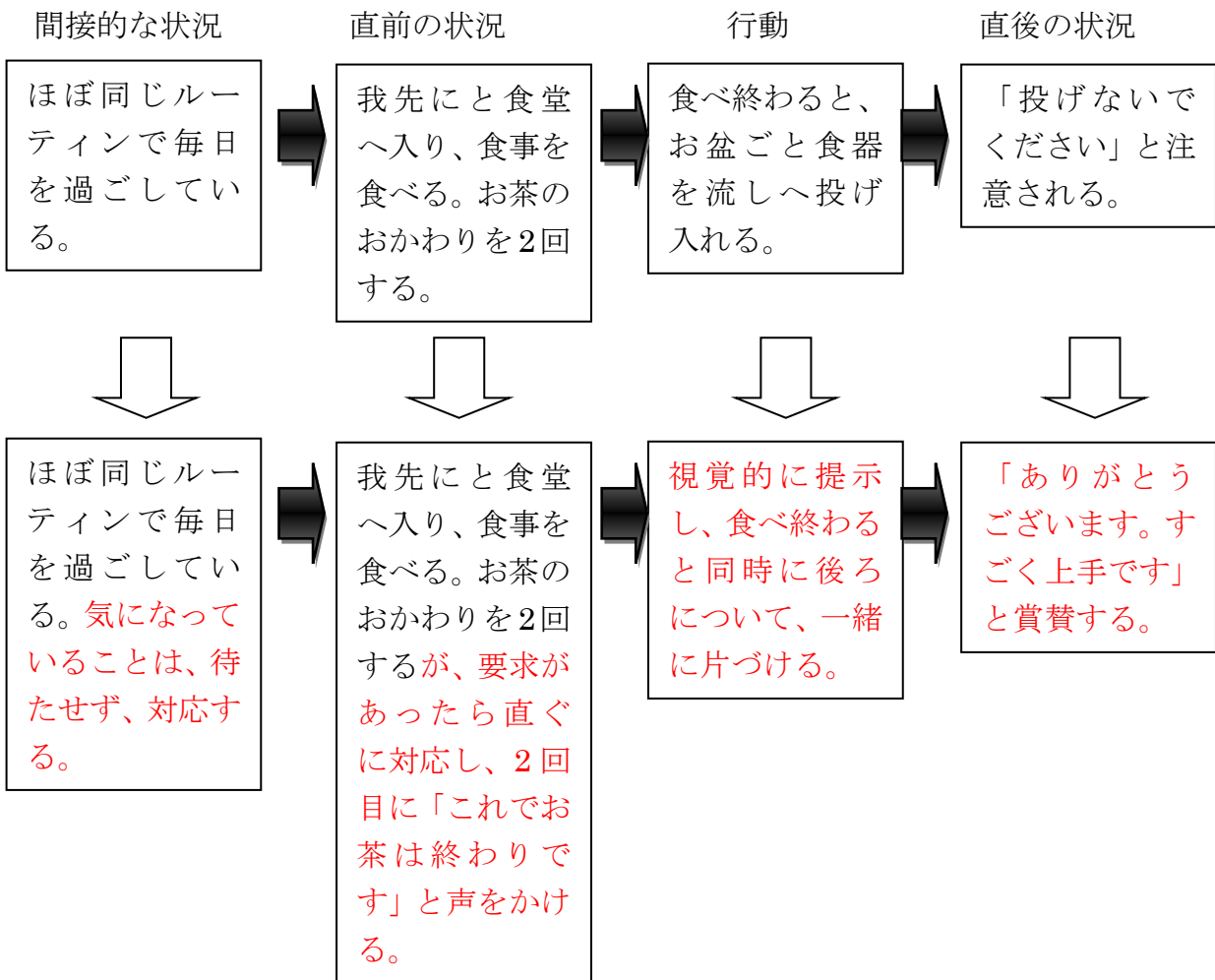
この結果、物・活動要求が強く出ていた。日々の言動からも、同一性保持の原則で動いていることがあり、「M.N」さんとしては、いつもと同じ様に動いているだけで、片づけ方を知らないのではないかと予想した。

したがって、直前までストレスなく活動できることや片づけ方を学び、毎日同じ方法で行えるよう学んでもらうことを試してみた。

(ア) 「M. N」さんの行動状況



(イ) 「M. N」さんの行動変更



エ まとめ

「M. N」さんの行動を変更するにあたって、応用行動分析（ABA）を用いて分析し、それに日頃から感じられる「M. N」さんの特性も加味して実践してみた。

結論から言うと、現在は投げることなくお盆ごと食器を置いてくれている。たまに投げてしまうこともあるが、それはこのような行動が一旦なくなっても、再度出現してしまう、きっかけがあるのだと考えられる。行動の課題とは、そういうものだとされているようだ。

ただし、今後も「M. N」さんの苦手さへの合理的配慮を行いながら、時には行動分析も行い、より良い支援方法にしていく必要があるようだ。

4 最新（H30.11 実施）のアンケート結果から見える支援員の意識について

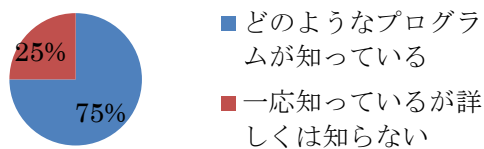
2でも述べたように、2年前から実践中心の勉強会にして取り組んできた。実践事例については、先に述べた通りである。

では、ここ2年間の実践から、支援員の意識や取り組みが変わったかを見てみたいと思う。今年度（平成30年度）11月に、再度同じアンケートを現勉強会メンバー（10名）で行ってみた。

(1) アンケート結果

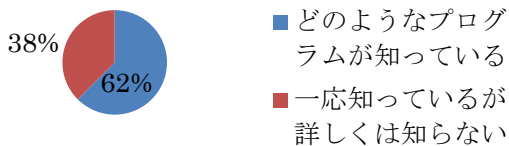
ア それぞれの技法等の理解度について

TEACCH プログラムを知っているか



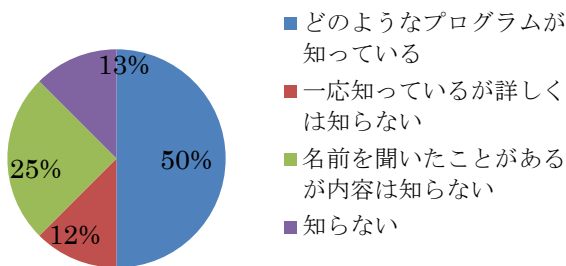
1回目の50%から75%に増えている。「内容は知らない」「知らない」と答えた人はいなかった。

太田ステージを知っているか



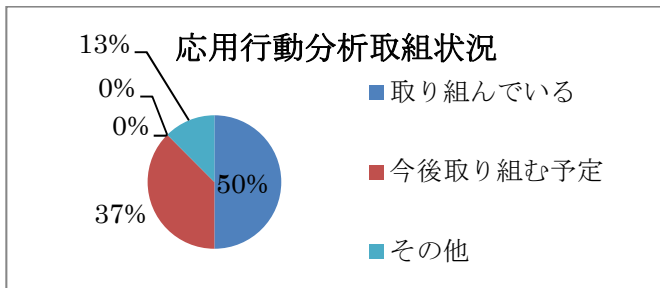
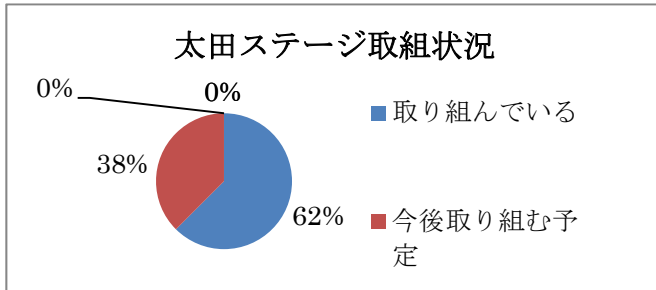
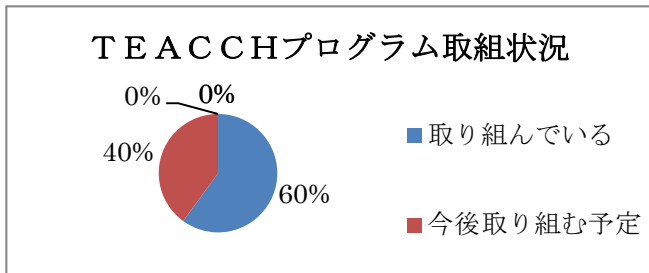
太田ステージは児童期のものという認識なのか、TEACCHよりは低かった。

応用行動分析学を知っているか



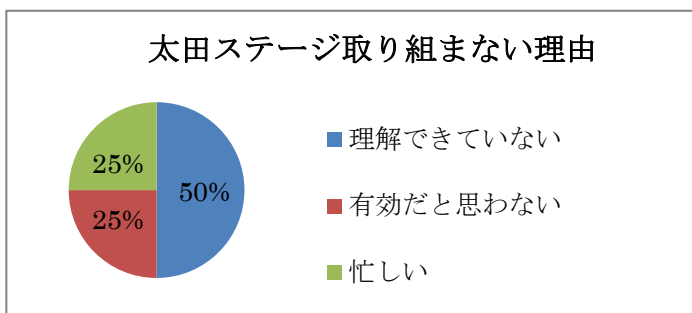
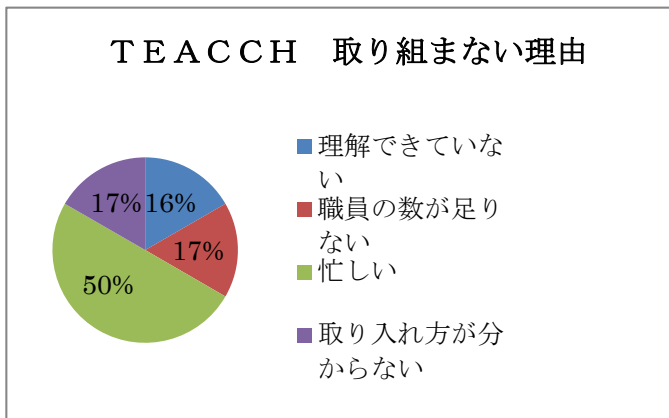
上記2つに比べ、低い結果となった。未だ支援員の理解が進んでいないようだ。

イ それぞれの技法の取り組み状況について

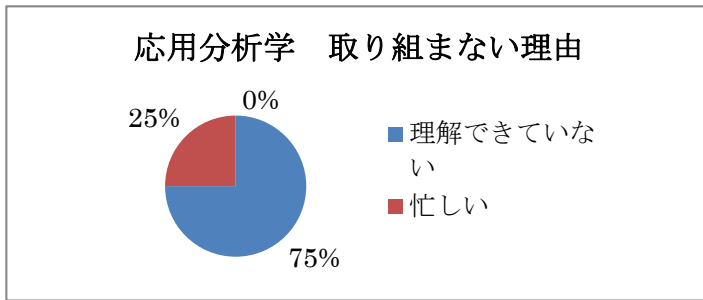


3 項目共に、「取り組んでいる」と回答した支援員が増加している。勉強会を通して技法を学び、より実践に結びついていると思われる。

ウ それぞれの技法に取り組まない理由について



理解している支援員は増えたが、どのように取組めがよいのか分からない支援員が増加している。より、実践的な勉強会の取組みが必要なのだろう。また、太田ステージに関しては、「有効だと思わない」と答えた支援員もいる。これらの技法は、必ずしもやらなければいけないわけではなく、参考にするという認識であることが必要だと伝えたい。



エ アンケートのまとめ

3つの技法共に、実践を伴った勉強会を行ったことで、より専門的な支援方法を獲得し、支援員のレベルアップにつながったことは確かなようである。

しかし、日々のルーティンワークに追われ、他支援員とも連携して成り立つ支援であることを考えると、中々変化を起こす取り組みを行うことは難しいのも事実である。

だが、少人数でもこれだけの成果が見込めるのである。このような、実践を伴った取り組みを組織で行えば、より大きな効果が見込めるのではないかと考える。

5 おわりに

いい組織とは、どんな組織なのだろうか。日々私達はその所属する組織の中で働き、対価を得ている。様々な問題もあろうが、その組織を駄目にしようと思って働いている人はいないはずである。

しかし、私達支援員の多くが、日々の業務に追われ疲弊しているのも事実である気がする。より良い支援とは何かを考えながら、行動できていないのではないだろうか。

そんな事態を打開したいと願い、「同じ思いで支援できる仲間を1%でも増やしたい。」そんな思いで勉強会を行ってきた。「組織が何をしてくれるか」ではなく、「組織をより良くする為には、どうしたらよいか」と考えてきたつもりである。

実践を伴った勉強会は、時には忙しく苦しい中でも行わなければならなかったのも事実であるが、実践という苦しみもあるからこそ自分のものになり、一定の効果は出せた。

北海道にある「社会福祉法人 はるにれの里」でも、日々研修を行い、実践を伴った事例発表会を、事業所をあげて取り組むと聞いた。入選者には、3万円分の図書券と7万円分の所外研修費が支払われるようである。

賞品さえよければということではないが、私達の西駒郷においても、各支援課ごとに年間を通して実践に取り組み、それを発表し競う場を設けてもよいのではないだろうか。

所をあげて取り組むことで、より支援員のレベルが上がるのではないかと思う。

数年先には、西駒郷も一部建て替えの話も出ている。様々な検討がされているが、それらを行うには、支援員のレベルアップは不可欠だと考える。

それに間に合うよう、我々支援員も「自分は今何をできるか」を考えながら、日々レベルアップにつながるような取り組みをしていきたいと思う。

論文全メンバー

西駒郷 駒ヶ根支援事業部 駒ヶ根日中支援課 小林建太 江田翠 池上さくら
櫻井志帆 上松裕奈 宮脇深志
宮入博喜
ひまわり支援課 飯森悠太
企画調整課 齋藤満

{参考文献}

- ・「気づきとできるから始めるフレームワークを活用した自閉症支援」
水野敦之著/エンパワメント研究所発行/筒井書房
- ・「働く自閉症者のための作業改善の工夫とアイデア」
～構造化で活かす一人ひとりの特性～
村松陽子監修/自閉症就労支援技術研究会エンパワメント研究所発行/筒井書房
- ・「自閉症治療の到達点」 太田昌孝・永井洋子編著/日本文化科学社
- ・「自閉症治療の到達点②」
認知発達治療の実践マニュアル 自閉症の stage 別発達課題
太田昌孝・永井洋子編著/日本文化科学社
- ・平成 21 年度 厚生労働省 障害者保健福祉推進事業助成研究
自閉症等発達障害児・者を支援する施設・事業所における TEACCH プログラム導入方法の調査・研究
～施設・事業所、教育・研究機関、行政等の連携のあり方を含めて～
川崎医療福祉大学 研究代表 大田晋

自閉症者支援のための理解・認識と、その取り組み状況におけるアンケートにご協力ください。

現在駒ヶ根支援事業部の中においても、自閉症の方が多くいらっしゃるかと思います。日々支援していく中で、自閉症の方で行動に問題のある方もおり、どのように支援していったらよいのかを悩むこともあるのではないのでしょうか。

そこで、今年度自閉症に関する私的勉強会を数名で立ち上げ、定期的に勉強会を行ってきました。自閉症に対するアプローチはさまざまなものがありますが、私達は事業団が行った自閉症研修で学んだ事を基本にして学んできました。

その研修の中から「TEACCHプログラム」「太田ステージ(LDTR)」「応用行動分析(ABA)」の3つの技法に絞り勉強してきました。これは、西駒郷の職員で外部の研修に行かれた方も多く学んできており、研修報告でも沢山の発表の機会があったと思います。

そこで、これらの技法や自閉症への理解・認識についてお聞きしたく、アンケートを作成しました。お聞きしてまとめたものを、勉強会の参考資料とさせていただきます。

大変お忙しい時期だと思いますが、調査の趣旨をご理解の上、11月30日(月)までに記入していただくと大変ありがたく思います。

期日までに回収に回りますので、何とぞご協力をお願い申し上げます。ご不明な点等ありましたら、下記までお問い合わせください。

※アンケートは4枚あります。それぞれにお答えください。

駒ヶ根日中支援課
内線268
宮入

自閉症者支援のための理解・認識と取り組み状況調査

「TEACCHプログラム」についてお伺いします。

1. 「TEACCHプログラム」をご存じですか。該当するものを1つ選んでください。

- ア どのようなプログラムか詳しく知っている。イ. 一応知っているが詳しくは知らない。
ウ. 名前を聞いたことはあるが内容は知らない。エ. 知らない。

2. これまで支援してきた中で、「TEACCHプログラム」をモデルとした支援の取り組み状況について該当するものを1つ選んでください。

- (ア) 取り組んでいる。
(イ) 現在は取り組んでいないが、今後取り組む予定である。
(ウ) 以前取り組んだことはあるが、現在は取り組んでいない。
(エ) これまで取り組んだことはなく、今後も取り組む予定はない。
(オ) その他 ()

3. 質問2で(イ)(ウ)(エ)(オ)を選択された方にお伺いします。その理由として該当するものを選んでください。(複数回答可)

- (ア) TEACCHプログラムを理解できていない。
(イ) TEACCHプログラムが有効だと思わない。
(ウ) やってみたが効果を得られない。(エ) 他の職員の協力を得られない。反対される。
(オ) 職員の数足りない。(カ) その他の取り組みで十分に効果がある。
(キ) 忙しすぎて行う余裕がない。(ク) 保護者が求めない。(ケ) 取り入れ方が分からない。(コ) 特に関心がない
(サ) その他 ()

※質問2で(イ)(ウ)(エ)(オ)を選択された方は、1枚目は終了です。2枚目のアンケートにうつってください。

4. 質問2で(ア)を選択された方に伺います。「TEACCHプログラム」導入のきっかけについて、該当するものを選んでください。(複数回答可)

- (ア) 上司の提案 (イ) 自らの提案 (ウ) 現場職員の提案 (エ) 保護者からの要望
(オ) その他 ()

5. 質問2で(ア)を選択された方に伺います。構造化された支援法をどのように取り入れていますか。取り入れましたか。具体的に記述してください。

[]

6. 質問2で(ア)を選択された方に伺います。「TEACCHプログラム」をモデルとした支援への取り組みについての実感として、該当するものを1つ選

んでください。

- (ア) 取り組みとしてうまくいっている。 (イ) どのように進めてよいか悩んでいる。
(ウ) 取り組みとしてうまくいっていない。 (エ) もうやめたい。

太田ステージ (LDT-R) について伺います。

1. 「太田ステージ (LDT-R)」をご存じですか。該当するものを1つ選んでください。

- ア どのような技法か詳しく知っている。イ. 一応知っているが詳しくは知らない。
ウ. 名前を聞いたことはあるが内容は知らない。エ. 知らない。

2. これまで支援してきた中で、「太田ステージ (LDT-R)」を用いた支援の取り組み状況について該当するものを1つ選んでください。

- (ア) 取り組んでいる。
(イ) 現在は取り組んでいないが、今後取り組む予定である。
(ウ) 以前取り組んだことはあるが、現在は取り組んでいない。
(エ) これまで取り組んだことはなく、今後も取り組む予定はない。
(オ) その他 ()

3. 質問2で (イ) (ウ) (エ) (オ) を選択された方にお伺いします。その理由として該当するものを選んでください。(複数回答可)

- (ア) 太田ステージ (LDT-R) を理解できていない。
(イ) 太田ステージ (LDT-R) が有効だと思わない。
(ウ) やってみたが効果を得られない。(エ) 他の職員の協力を得られない。反対される。
(オ) 職員の数が足りない。 (カ) その他の取り組みで十分に効果がある。
(キ) 忙しすぎて行う余裕がない。 (ク) 保護者が求めない。 (ケ) 取り入れ方が分からない。 (コ) 特に関心がない
(サ) その他 ()

※質問2で (イ) (ウ) (エ) (オ) を選択された方は、2枚目は終了です。3枚目のアンケートにうつってください。

4. 質問2で (ア) を選択された方に伺います。「太田ステージ (LDT-R)」導入のきっかけについて、該当するものを選んでください。(複数回答可)

- (ア) 上司の提案 (イ) 自らの提案 (ウ) 現場職員の提案 (エ) 保護者からの要望
(オ) その他 ()

5. 質問2で (ア) を選択された方に伺います。「太田ステージ (LDT-R)」を用いた支援への取り組みについての実感として、該当するものを1つ選んでください。

- (ア) 取り組みとしてうまくいっている。 (イ) どのように進めてよいか悩んでいる。
(ウ) 取り組みとしてうまくいっていない。 (エ) もうやめたい。

応用行動分析学（ABA）について伺います。

1. 「応用行動分析学（ABA）」をご存じですか。該当するものを1つ選んでください。

- ア どのようなアプローチか詳しく知っている。イ. 一応知っているが詳しくは知らない。
- ウ. 名前を聞いたことはあるが内容は知らない。エ. 知らない。

2. これまで支援してきた中で、「応用行動分析学（ABA）」を用いた支援の取り組み状況について該当するものを1つ選んでください。

- (ア) 取り組んでいる。
- (イ) 現在は取り組んでいないが、今後取り組む予定である。
- (ウ) 以前取り組んだことはあるが、現在は取り組んでいない。
- (エ) これまで取り組んだことはなく、今後も取り組む予定はない。
- (オ) その他（ ）

3. 質問2で（イ）（ウ）（エ）（オ）を選択された方にお伺いします。その理由として該当するものを選んでください。（複数回答可）

- (ア) 応用行動分析学（ABA）を理解できていない。
- (イ) 応用行動分析学（ABA）が有効だと思わない。
- (ウ) やってみたが効果を得られない。（エ）他の職員の協力を得られない。反対される。
- (オ) 職員の数が足りない。（カ）その他の取り組みで十分に効果がある。
- (キ) 忙しすぎて行う余裕がない。（ク）保護者が求めない。（ケ）取り入れ方が分からない。（コ）特に関心がない
- (サ) その他（ ）

※質問2で（イ）（ウ）（エ）（オ）を選択された方は、3枚目は終了です。4枚目のアンケートにうつってください。

4. 質問2で（ア）を選択された方に伺います。「応用行動分析学（ABA）」導入のきっかけについて、該当するものを選んでください。（複数回答可）

- (ア) 上司の提案 （イ）自らの提案 （ウ）現場職員の提案 （エ）保護者からの要望
- (オ) その他（ ）

5. 質問2で（ア）を選択された方に伺います。「応用行動分析学（ABA）」を用いた支援への取り組みについての実感として、該当するものを1つ選んでください。

- (ア) 取り組みとしてうまくいっている。（イ）どのように進めてよいか悩んでいる。

(ウ) 取り組みとしてうまくいっていない。 (エ) もうやめたい。

領域別アセスメント

(別添資料2)

領域	着眼点	施設での状況	家庭での状況
生理的基盤	睡眠 入眠、起床時間、夜間の様子等		入眠は 11:00~12:00 眠ってしまったば夜中はあまり起きることはありません。 起床は 7:00~8:00
	排泄 排尿、排便の状況、失敗の有無、下痢/便秘等	ほぼ自立している。 大便時のお尻のふき取りが不十分である。	ほぼ自立でトイレ以外で失敗することはありません。 排尿時に衣服にかかってしまうことがあります。 お尻のふき取りは不十分で確認が必要。
	食事 食事量、時間、おやつ、偏食、食事の様子等	食事中に席から立ち上がったたり、走りだすことがある。 おやつも偏食がある。 量は、決めればまもることができる。 好きなものは結構食べる。 生野菜はあまり好きでない様子。かぼちやの蒸かしたものは食べる。 焼き魚なども食べれる魚とそうでない魚がある。 コーラなどの炭酸飲料もあまり好きでない。 スナック菓子の「えんどうまめ」など野菜系統のスナック菓子も苦手。	食事やおやつのは量は、決めれば守ることができます。 自分で食べられますが、箸の持ち方にはにぎりの時が多いです。
感覚的基盤	味覚 偏食、味の好み、飲み込み、嚥下、食事のスピード等	麺類の時は、ゆっくり食べる 好きなものは食べる	こだわりもあり、偏食は多いです。 あまりかまわないで早食いです。
	聴覚 嫌いな音、好きな音/音楽、好きな場所、嫌いな場所、耳ふさぎ等	大きな声などに対して「うるさいね」と反応することがある。	聴覚過敏があり大きい音、小さい子どもの声などが苦手。 CDで音楽を聞くことは好き。 常時イヤマフを使用しています。
	触覚 衣服の材質、入浴・歯磨きの様子、対人接触等	タグや選択表示は気になり、自分で切ってしまう。	衣服の材質はこだわりませんが、タグや選択表示は気になり、自分で切ってしまう。
	嗅覚 食事の好み、嗅ぐしぐさ等	食べ物に警戒心がり、何でもにおいをかぐくせがあります。	食べ物に警戒心がり、何でもにおいをかぐくせがあります。
	運動 ロッキング、ジャンピング、常同運動、反復運動、歩行の様子、多動、模倣等	ジャンプをしたり、急に走り出したりすることがあります。	
認知・コミュニケーション	発信 発生・発語の様子等	繰り返し同じ単語を発語することがある。生活の中の言葉を繰り返し発している。	発語は限定的で、単語、二語文

領域別アセスメント

	イエス・ノーの伝達方法、拒否や不安の表現、パニックの様子等	拒否ははっきりしていて、いやなときはことばではっきり言います。 嫌なことがあると両手を組み強く握り表情が険しくなることがあります。	拒否ははっきりしていて、いやなときはことばではっきり言います。 不安は泣く、頭をたたく、同じ単語のくり返しがあります。
	要求伝達の方法等	要求は言葉がでるとき、出ないときがあり、指さしやクレーンのときがあります。 こちらから「どうしましたか」「どこにいきますか」と声をけると「〇〇行く」と伝えてくれます。	要求は言葉がでるとき、出ないときがあり、指さしやクレーンのときがあります。
	受信	言語理解レベル、絵カード、写真カードの理解等	こちらが言ったことはほぼ理解できているように感じています。
	変化への対応	同一性保持の様子、イレギュラーへの対応等	予定変更などは受け入れてもらえることが多いですが、本人が拘ってやっていると止められたりすると表情が険しくなり、つねったりしてしまうこともあります。
	時間	時間の理解、時間の概念等	時間の理解はないように感じます。 行動や活動が終わることで次の行動へ切り替えをしている。
趣味・関心・余暇	テレビ・ビデオ	好きな番組、嫌いな番組等	ジブリ映画を見ています。映画なども全てを見るわけではなく、本人の気に入った場面を繰り返しみて楽しんでいます。
	音楽	好きな曲、嫌いな曲等	「こどものうた」や「童謡」などの CD 好んで聞いています。
	本・雑誌	好きな本、嫌いな本	歌詞が書いてある楽譜など好き。気になる。
	対人関係遊び	2人以上で楽しめる遊び、活動、快経験を得られる遊び等	人とのコミュニケーションは好きなように感じますが、こちらからコミュニケーションをとりに行くことが引かれることがある。
	趣味の範囲	特定なものへの関心等	CD デッキ、CD、DVD、ビデオに関心が強いと感じる。
	その他	その他の遊ぶ、余暇活動全て	CD を聞いたり、DVD を見たりして過ごしています。紙破きなどをして過ごしています。また最近では、絵具を使い絵を描くことに凝っています。
			変化に対して不安な様子がみられることもありますが、説明すると受け入れられることが多いです。
			時計は読むことができません。 時間はあまり気にせず、こだわりもありません。
			好きな番組(テレビ)は E テレの子供向けの番組(おかあさんといっしょなど)嫌いな番組は特にありません。ジブリの映画が好きでよく見ます。
			流行の歌は興味がありません。子ども向け番組の歌、童謡、アニメ主題歌に興味を示します。
			好きな本は、絵本のノントンシリーズメイシーちゃんのシリーズ 歌詞が書いてある楽譜。
			ルールのある遊びは苦手。 他の人とのやりとりは苦手。 手あそびなどは一緒にすることもできます。
			CD、DVD に特に関心が強いです。
			余暇は図書館で本や DVD を見たり、ドライブするのが好きです。パソコンで音楽を聴くのも好きです。

領域別アセスメント

課題 遂行	作業	作業種、作業の様子	<p>利用開始から様々な自立課題や作業を行ってきましたが、非常に手先が器用で難しい課題なども自分で考えながら工夫してやりやすい方法を見つけて取り組む姿勢がありました。</p> <p>長い時間同じ作業をすることは難しいかと思いましたが、本人が気に入った作業などがあれば集中して取り組むことが出来るのではないかと感じています。</p>	
	手伝い	手伝いの内容、様子	<p>自発的にはありませんが、指示をすれば動いてくれます。</p> <p>こちらでは、おやつのお時間におやつ盛り付けやしてもらっています。</p>	<p>食事の時準備は、指示をすればしてくれます。自発的にはありません。</p>
視覚的 支援	スケジュール	支援の方法、状況、理解度	<p>月間の予定、一日の流れ、作業の流れを視覚的に支援をしています。作業の流れでは、表示板を見て次の作業に移る様子がありました。</p> <p>曜日の理解はあると思います。本人の中で月・火・金はサラさんで水・木は西駒郷は理解していました。</p>	<p>カレンダーに記入しておく、自分で見て理解したり記憶することができます。曜日の感覚はあり、1週間程度の予定の把握は可能です。</p>
	自己決定	情報提供の方法、自己決定の方法、場面	<p>基本的な情報提供は、口頭で伝えていきます。</p>	
その他				

LDT-R太田ステージ評価記録票

No. 1

氏名 S・Iさん 生年月日 1998年6月 19才

ステージⅢ-2

検査日 2018年 5月 31日

評価者: 小林

項目		結果		備考
1・名称 4 / 6	猫	○		
	ボール	○		
	時計	○		
	くつ	○		
	りんご	○		
	自動車	○		
2・用途 4 / 6	飲むもの	○		迷わずトントンと指でさす
	書くもの	○		迷わずトントンと指でさす
	乗るもの	○		迷わずトントンと指でさす
	切るもの	○		迷わずトントンと指でさす
	座るもの	○		迷わずトントンと指でさす
	かぶるもの	○		迷わずトントンと指でさす
3・大小比較	(最小を隠し) どちらが大きい?	○		迷わずトントンと指でさす
	(最大を隠し) どちらが大きい?	○		迷わずトントンと指でさす
	(最大を隠し) どちらが小さい?	○		迷わずトントンと指でさす
	(最小を隠し) どちらが小さい?	○		迷わずトントンと指でさす
4・空間関係	①犬をとってください	1回目	2回目	
		○		犬を取って渡してくれる
	②ボタンを箱の上に置いて	×	×	ボタンを箱の中に入れる
	③鋏を積木のそばに置いて	×	×	積木の上に鋏を置く。積木を鋏の上に置く
	④箱をボタンの上に置いて	×	×	ボタンを箱の中に入れる
⑤積木を鋏のそばに置いて	×	×	積木の上に鋏を置く。	
5・数の保存	① ●●●●●● ○○○○○			
	② ●●●●●● ○○○○○			
	③ ● ● ● ● ● ○○○○○			
	理由を聞く			
6・包含	●●●●●●●● ○○○○○ 黒の基石の数と基石全体の数とでは どっちが多い?			
	理由を聞く			

行動障害の動機付け尺度

a) 動機付け尺度の各質問項目について次の「7段階評価」をしてください

全くない	0
まずない	1
滅多にない	2
時々ある	3
普通にある	4
ほとんどある	5
いつもある	6

氏名 M・Nさん

行動

食器投げる

b) 動機付け尺度質問項目 (16項目)

1	その行動は、2～3時間ひとりぼっちで誰からも相手にされないと、繰り返し起こりますか？	6
2	その行動は、難しいことを要求されると起こりますか？	6
3	その行動は、自分に話しかけられていない場合に起こりますか？	1
4	その行動は、食べ物など何かほしいとき、または何かやってもらいたい時に起こりますか？	3
5	その行動は、周囲に誰もいない時に長時間に亘って起こりますか？	2
6	その行動は、何か要求されたときに起こりますか？	0
7	その行動は、注目されていない時、または注目することをやめてしまった時に起こりますか？	3
8	その行動は、好きな物を取り上げられた時、またはやってあげていることをやめてしまった時に起こりますか？	5
9	その行動をやっている時には、楽しそうですか？	2
10	その行動は、誰かに何かをさせられそうになった時、またはその人をいらだたせようとした時、その人を困らせようとして起こりますか？	0
11	その行動は、自分に注目してもらえない時(関わっている人が自分と離れていた時、他の人に関わっている時)に起こりますか？	6
12	その行動は、欲しい物がもらえたり、やってもらいたいことをしてもらえば、すぐに治まりますか？	4
13	その行動をやっている時、機嫌良く、周囲で起こっていることに無頓着のように見えますか？	0
14	その行動は、関わってくれる人が何か要求することをやめると、すぐに治まりますか？	0
15	その行動は、関わってくれる人を自分の側に引き留めておこうとして行われるように見えますか？	0
16	その行動は、自分の思い通りにならない時に起こりますか？	6

c) 動機付け尺度評価表

	感覚要求		逃避要求		注目要求		物・活動要求	
	1	6	2	6	3	1	4	3
	5	2	6	0	7	3	8	5
	9	2	10	0	11	6	12	4
	13	0	14	0	15	0	16	6
計	10		6		10		18	
平均	2.50		1.50		2.50		4.50	
相対順位	2		3		2		1	